



和敬会だより

第139号

発行所
医療法人社団 和敬会
谷野呉山病院
富山市北代5200
<https://www.wakeikai.com>

発行人
理事長 谷野 亮一郎



発行日 令和4年6月9日



病院前の公園で桜を観賞

医療法人和敬会

基本理念

「希望に満ちた人生の回復を目指して 私たちはあなたと共にある」

基本方針

- ・専門職がチームで関わり、あなたの価値観を大切に医療を提供します。
 - ・常に研鑽に努め、安全で質の高い医療を提供します。
 - ・広く情報公開に努め、あなたと共に考える医療を提供します。
 - ・精神科救急体制の充実や社会資源との連携を図り、地域に根ざした医療を提供します。
 - ・環境に配慮し、地球にやさしい医療を提供します。
 - ・精神疾患に対する偏見の払拭、権利擁護に努め、あなたが自らの強みを発揮できる社会づくりを推進します。
 - ・人材育成に努め、当院に勤務する職員が自らの強みを発揮できる職場づくりを推進します。
- 私たちは基本理念を胸に抱き、健全な病院経営の下で以上の基本方針を実践します。

谷野呉山病院
ホームページ



職員募集専用



「谷野呉山病院80周年／谷野医院107周年を迎えて」

和敬会の歩みを振り返る

理事長・院長 谷野 亮一郎



大正三年、私の曾祖父・谷野亮二が、富山市総曲輪に谷野医院(内科・外科)を開設しました。そして昭和十六年、私の祖父・谷野亮一が、富山市北代に谷野呉山病院(以下「呉山病院」)を開設しました。奇しくも谷野医院が開設された大正三年には第一次世界大戦の発端となったサラエボ事件が、谷野呉山病院が開設された昭和十六年には太平洋戦争の発端となった真珠湾攻撃が起こっています。

亮一は、戦中戦後の混乱期から昭和四十二年まで、施設整備や院内活動の活発化に取り組み、富山市医師会看護専門学校初代校長も務めました。昭和四十三年一月に急逝しました。その後、矢後章三先生、竹島俊雄先生に院長にご就任いただき、昭和四十六年一月に、私の父・谷野亮爾が院長に就任しました。昭和四十九年には、私の母・谷野美美子が谷野医院院長に就任しました。私が生まれる前の話です。

父・亮爾は、昭和五十二年から中間住居(ハーフウェイハウス)を相次いで開設し、昭和五十五年にはデイケアセンター(谷野医院に併設)を、昭和五十九年には共同作業所を開所しました。また昭和五十三年から毎年院内学会が開催されるようになりました。地域生活支援として、訪問看護・デイケアの充実を図ると共に、昭和六十三年より長期入院患者グループ退院の実践「あすなる会」をスタートさせました。平成三年には作業療法棟を新設し、作業療法の充実を図りました。

平成九年六月には、医療法人の設立認可を受け、「医療法人社団 和敬会」が誕生し、谷野亮爾が法人理事長に就任しました。「和敬会」の法人名は、茶道の精神である「和敬清寂」に由来します。

平成十三年、呉山病院の設立60周年にあたり、精神障害者の医療と福祉を総合的にサポートする日本初の複合施設として、「脳と心の総合健康センター」を建設しました。一階にはデイケアセンター、二階には生活訓練センター、一階と二階の一部スペースには生活支援センターを設けました。

呉山病院の老朽化が進んだことから、三年の工期を経て平成十八年四月に新病棟を建設しました。呉山病院の新病棟建設と並行して、谷野医院の新築工事を行い、平成十七年十一月に移転オープンとなりました。

平成二十年、呉山病院は日本医療機能評価機構が定める「認定病院」となりました。

平成二十二年、呉山病院内に認知症疾患医療センターを整備しました。平成二十四年四月一日、私が呉山病院院長に就任しました。同時に、呉山病院の基本理念を「希望に満ちた人生の回復を目指して 私たちはあなたと共にある」に刷新しました。平成二十六年、呉山病院で治療抵抗性統合失調症治療薬クロザピンが使用可能となりました。平成二十八年四月、呉山病院と谷野医院に電子カルテを導入しました。平成三十一年三月には富山県依存症専門医療機関および富山県依存症治療拠点機関に選定されました。

令和元年十月一日に、谷野亮爾が和敬会会長に就任し、後任の理事長に私が就任しました。

皆様のご指導・ご支援により、令和三年、呉山病院80周年、谷野医院107周年、脳と心の総合健康センター20周年を迎えることができました。それに合わせて記念誌を発行しました。

連綿と受け継がれてきた患者さま本位の姿勢を忘れることなく、これからも地域のために、富山のために、地域の一資源としての役割を果たしてまいります。



コロナ禍に作品展示会を開催して



やすらぎホールで鑑賞

コロナ禍、様々な行事の中止を余儀なくされる中、作品展示会も昨年度は中止となりましたが、今年度は従来の方法を見直し、感染対策をはかることで開催にりました。応募していただいた皆様、ご協力いただきましたスタッフの方に感謝申し上げます。

今回は、従来の展示場所である「やすらぎホール」が感染対策のために外来の待合場所となっており、展示場所の確保が十分でないために作品数を減らして開催となりました。残念なところもありましたが、待合場所が作品で華やき、待ち時間を短く感じさせることが出来たのではないかと思います。

また従来と違い、入院患者さまの鑑賞は外来者と接触を防ぐために、別期間に別場所での鑑賞機会を設けさせていただきました。スタッフの付き添いが毎回必要であり、自由に鑑賞出来ずご不便をおかけしましたが、患者さまが自身の作品を嬉しそうに観ておられる姿をみて、また表彰式の際に自身の作品を理事長に力説されている様子を拝見し、コロナ禍ではありますが鑑賞方法を



入院患者さまの鑑賞

変更してでも開催が出来たことを誇らしく思いました。

展示会の目的である「入院および通院患者さまの作業療法やDCCプログラム及び日々の活動における作品を展示する場を提供することにより、作業療法及びDCC参加への動機付けを高める」「来院者やご家族さま、精神障害者の作品を通して理解を深めてもらう機会とする」の両方を十分に果たせたと思っております。

実行委員長 丸本 薫

新設 医事・医療情報課のモットー



令和四年四月に医事課と情報企画課が統合され医事・医療情報課が設置されました。その業務は、窓口での外来受付や会計、入院時の事務手続き、レポート等の請求や施設基準の届出・報告、電子カルテをはじめとする法人内のシステムやIT機器の管理運用などです。この広い守備範囲を女性五名、男性二名で担当しています。これまでは、医事課は女性だけだったので、今回男性が加わり、心強くなります。



さて、医事・医療情報課のモットーは、次の三つです。
第一に「相手の気持ちや立場を考えた接遇を心がける」ことです。患者さまやご家族と接して行う仕事が多く、私たちが対する印象がそのまま入院の印象になってしまうこともあります。入院の手続きなどは複雑で患者さま側にとっては初めてのこともあるので、分かりやすい説明に努めています。

第二に「法人内の多職種の方と緊密に連携する」ことです。レポート業務は、医師や看護師の皆さんとの連携により、誤りのない請求を行うことができます。また、医療費の未収金への対応についても、患者さまの置かれている状況に十分な配慮をする必要があります。精神保健福祉士の皆さんとの連携が欠かせません。
第三に「仕事はメリハリをつけて時には厳しく時には楽しく行う」ことです。レポート業務では、正しい請求を期限内に合うよう作成するには厳しさが求められます。しかし、レポート請求が終われば余裕ができて、楽しく診療報酬制度を勉強することもできます。

医事・医療情報課の業務はそれぞれ専門性が高く、必要な知識を習得するには時間がかかります。また、若い職員や子育て中の職員もいますが、今後ともこれらのモットーを大切に日々の業務に取り組み、効率的に仕事をすすめて、皆さんが長く勤めることができる環境づくりをしたいと思っております。

医事・医療情報課長 森 藍美

法人の動き

月	日	事項
2	15	入院者に新型コロナウイルスワクチン接種 三回目を開始
3	7	やすらぎホール作品展展示会
3	9	職員総会
3	25	防火訓練
3	28	認知症疾患医療センター研修会
6	30	YouTubeで配信
4	1	臨時職員総会

認知症疾患医療センター研修会

「アルコールによる健康障害」
〜その理解と支援〜

講師：理事長 谷野 亮一郎

配信期間

令和四年六月二十日まで



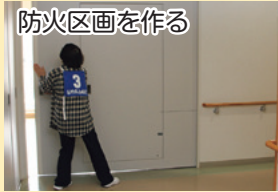
防火訓練を行いました。



3A2病棟の様子

令和四年三月二十五日に防火訓練を行いました。今回は、夜間勤務帯の3A2病棟デイルームから出火したという想定で実施しました。コロナ禍ということもあり、病棟間の人の往来を極力避けるため、今回は、他病棟からの応援職員派遣は行わず、火元の発見、通報、初期消火、避難誘導、最終報告までを病棟内の職員で完結させることにしました。訓練参加人数が少ない分、自分たちで行わなければいけないことは多くなります。そういった状況でも3A2病棟の職員は、自分たちのすべき事をしっかり理解し、緊張しながらも、すべての事を迅速に行動することができていました。火災が発生した場合でも、しっかり対応ができると感じました。

病院は、患者さま、その家族、業者、職員など多くの人が常にいます。その命を預かる私たちにとって、防火に対する意識をしっかりと持つことはとても重要なことです。職員一人一人が協力し合い、一丸となって火災の発生を防ぐと共に、万が一火災が発生した場合でも、被害を最小限に食い止める行動が必要になってきます。そのためにも「法律で定められているから仕方なく行つ。」ではなく、「自分のところは自分で守る。」という防火管理の基本精神のもと、職員全員が防火に対する意識の向上に努め、防火設備の維持・管理を行い、いざというときに適切な行動がとれるよう、今後も防火訓練をしっかりと行っていきます。



防火区画を作る

防火管理者 浦西 将之

ちょっと一息



夜のクレハオトメシダレ

ご覧になりましたか？
呉羽山公園都市緑化植物園に咲く、「クレハオトメシダレ」
一株の中に一重咲と八重咲の花が混在している新品種です。
夜の水面に映る桜にも風情がありますね。

紙面に掲載されている患者さまの写真につきましては、掲載に際して、ご本人または保護者のご了承を頂いております。

編集後記

谷野呉山病院80周年と谷野医院107周年の記念誌も完成しました。

編集にあたっては、和敬会だより（旧院内新聞も含む）が大変参考になったようです。将来、和敬会の歴史を振り返る時のためにも、しっかりと紙面作りに励んでいきたいと思っております。

（樹）